

SHANTI



2021.10.秋
Vol. 312
シャンティ

巻末言 道



特集

絵本・紙芝居が できたよ!

カンボジアで 絵本と紙芝居をつくる

シャンティ国際ボランティア会 専門アドバイザー
鎌倉幸子 (かまくらさちこ株式会社 代表取締役)

「本を書ける人がいません。みんな殺されました。大半の本も燃やされました」

1993年にカンボジア王国が正式に成立してからまだ4年しかたっていない1997年5月、初めてカンボジアに行ったときに図書館事業課のスタッフから聞いた言葉だ。内戦終結直後のカンボジアは「知」の源流が絶たれてしまっていた。その先には多くの子どもたちがいるというのに。

しかし、物語は残っていた。兵隊に見つからないようにと洞窟などに本を隠した人たちがいたのだ。内戦前に編纂された「クメール民話集」、民俗伝承集「カティローク」などから物語を選んだ。

当時のカンボジアは高齢者が人口に占める割合が3%程度。内戦で体力のない高齢者の多くが亡くなったからだ。「いま、物語を聞き取らないと、絶滅してしまう」と、村々を回り、民話を収集した。昔話を聞かせてほしいと言われた村人はさぞかしびっくりしたことだろう。それでも、記憶の糸をたどりながら、お話をしてくれた。



物語に画家が絵をつける
(カンボジア、2005年)
©Masao Seto



出版された絵本を手に
(カンボジア、2000年)

「カンボジア人は龍の子孫だからさ」と楽しそうに物語を話す村人の顔を見ながら「カンボジアは物語でできた国だ」と思った。山が一つあれば、その山にまつわる物語が存在する。女性が身にまとうシルクの柄は鱗を表している。

「木を枯らすなら根から破壊しろ」。恐怖政治を行ったポル・ポトはこう言い、多くの人命を奪っていった。絵本や紙芝居を出版する工程の中で「私たちは祖先から伝わる物語の根を途切れさせない」と多くのカンボジア人が口にした。それはポル・ポトへ叩きつけた挑戦状であり、^{さんたん}惨憺たる過去との決別に向けた覚悟のように聞こえた。

カンボジアで本や紙芝居をつくることは、ただ教材をつくることではなかった。失いつつあったこの国の「物語」を、カンボジアの人の「記憶」と「自身の手」でよみがえらせることだった。

そして、バトンを受け取った若者が、新たな物語を描いていってほしいという願いの結晶だった。



SHANTI vol.312 CONTENTS

- 4 緊急レポート
ミャンマー国境の今
- 6 設立40年キックオフイベント
～海外職員によるトークセッション～
- 8 特集
絵本・紙芝居ができたよ!
- 14 特別特集
エリック・カールさん追悼メッセージ
- 16 世界の絵本を読んでみよう
「ウサギくん、きみをわすれないよ」
ミャンマー 2015年
- 18 世界のおやつ旅
カンボジアのおやつ/ソクチャー・ロッパウ

- 19 世界の現場からAIRMAIL
From 活動の現場 & 現地のスタッフリポート
▶BRCミャンマー(ビルマ)難民キャンプ
- 22 開催報告
ミャンマー(ビルマ)難民キャンプでの20年
- 24 シャンティな人たち 番外編
職員紹介
- 30 ファインダーをのぞいて
「再会」
- 31 お知らせ
- 32 道 カンボジアで絵本と紙芝居をつくる
シャンティ国際ボランティア会 専門アドバイザー
鎌倉幸子(かまくらさちこ株式会社 代表取締役)

「子どもたちにカンボジアの文化や伝統を、クメール語で伝えていきたい」という思いから、現地の民話を集め、作家や画家などの人材を探して、現地の人と一緒に絵本や紙芝居にして残していきました。

出版活動はその後、他の活動地にも広がり、各地で実施する図書館活動では、物語を音読する声や読み聞かせを楽しむ子どもたちの笑い声が響いています。アジア各地での絵本・紙芝居出版活動をご紹介します。

シャンティの絵本・紙芝居出版活動は、カンボジアからスタートしました。カンボジアでは、ポル・ポト政権時代の焚書政策により、ほとんどのクメール語の書物が焼かれ、教育者や芸術家なども多くが殺されました。



今号の表紙
カンボジア・プノンベンのスラムでの移動図書館活動
(2013年撮影)
©Yoshifumi Kawabata

ミャンマー 国境の今



タイ北西部のターソーヤーン郡から見た国境周辺の様子。川の向こう側はミャンマー

ミャンマー国境の概要

2月1日、ミャンマーで国軍によるクーデターが発生してから5カ月以上が経過しました。クーデター後、軍政成立に対抗する市民の不服従運動（CDM）が全国に広がり、これに対して国軍は、銃撃など激しい暴力を用いて事態を鎮圧しようと試みています。連日、多くの死傷者が発生し、民間人が不当に拘束されていることなどがメディアによって報告されています。多数の市民が弾圧を逃れるために国境を越え、隣国に逃れ始めています。

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の発表によると、累計でタイ側に7000人近い難民が流入したと推計されており※、支援の必要性をタイ政府および国際社会に訴えています。タイ政府は、タイ国内で支援を展開するための調整グループを立ち上げたものの、実質的な支援は行えずにこのが現状です。

タイと国境を隣接するミャンマー南東部カレン州やカヤ州では、国軍による無差別攻撃により、多くの村の家や田畑が焼かれ、民間人死傷者もでています。侵攻してくる国軍に対して、カレン系のグループが領土を守るために応戦する場面もあり、戦闘から逃げる多くの避難民はジャングルや洞窟での生活を余儀なくされています。

こうした避難民の中には、高齢者、障がい者、子ども、妊婦なども含まれており、緊急の食料支援が必要とされています。さらに、ジャングル生活が長引くことにより、医療、日用品、教育といったさまざまな面で支援が必要とされています。また、村々では空軍機が近づくとサイレンが鳴り響き、村人や避難民はそのたびにジャングルに逃げ込む状況が続いています。日常的に空爆の恐れにさらされる精神的ストレスは計り知れず、精神的ケアも必要とされています。



ミャンマー国境支援事業事務所のセイラー職員と共に聞き取り調査を実施

取り組んでいる 緊急支援の活動

シャンティは職員1名を派遣し、タイを拠点に現地の支援団体と共に活動を行っています。

※ UNHCR REGIONAL BUREAU FOR ASIA AND PACIFIC (RBAP), MYANMAR, EMERGENCY UPDATE, as of 01 June 2021

関連団体への聞き取り調査

国境周辺（主にターク県およびメーホンソン県）において、中長期事業立案のために、関連NGOや地域コミュニティ、国連機関から、ミャンマー側およびタイ側の避難民の状況やニーズ、治安状況などに関して聞き取り調査を行っています。連携しているカウンターパートからさまざまな情報共有を受けており、支援ニーズがあるのは、中長期化するジャングルでの生活に必要な、栄養食品を含む食料、生活必需品、医療物資（ジャングルでの生活が長引いているため皮膚疾患が多い）などです。



タイのメーソットからミャンマーのミャワティにつながる友好橋。新型コロナウイルス発生以降、越境できないように鉄格子が張られている

タイ国内関連機関との支援調整

タイ政府や国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）主導で、今後発生する可能性のある難民の大量流入に備えて、対応計画の策定や関係機関での支援調整などを行っています。支援については、教育や保護、公衆衛生など各分野に分かれて、参画している団体間で調整が進められています。シャンティは教育および保護セクターと調整中で、メーホンソン県、ターク県、カンチャナブリ県との調整を進めています。



物資配布の様子

国境周辺での物資配布

国境周辺で、食料や衛生用品、日用品などの物資配布を行っています。現地の団体と支援について調整の上、対象地域を選定し、配布を実施しています。その際には、シャンティ自身が物資配布を実施するのではなく、現地のNGOと協働して実施しています。現地の村々とも連携して、役場の担当者らと調整などを行っています。避難民が避難している地域は、入域制限がなされている地域も多く、アクセスできる団体は限られています。

設立40年キックオフイベント

～海外職員によるトークセッション～



2020年12月、シャンティ設立40年を迎えるにあたり、シャンティの原点とこれまでの歩みを振り返りながら、現在の活動内容をお伝えし、未来への展望を考えるオンラインイベントを開催しました。今回は、各国事務所で活動の最前線に立つ職員が登場したトークセッションの様子をお届けします。新型コロナウイルスに対する感染対策や、感染拡大に伴う情勢変化などに柔軟に対応しながら、歩みを止めずに進んでいる現状が見えてきました。(内容は2020年12月時点)



アフガニスタン
職員代表

入職のきっかけは当時働いていた現地NGOとシャンティが共同事業を行ったことです。現地ですべて働くのはリスクもありますが、図書館活動のインパクトがとても大きく、教育なくして故郷の復興は達成できないと踏ん張っています。



ミャンマー
国境支援事業事務所
セイラー
副所長

2000年、私はシャンティに出会い、その教育支援に感銘を受け、シャンティで働くことを決めました。読み聞かせには大きな力があります。夢や希望を持たせてくれます。これからはがんばっていききたいと思います。



カンボジア
モンクラ
コーディネーター

私が子どもの頃はカンボジアに幼稚園がほとんどなく、幼稚園という言葉すら聞いたことがありませんでした。幼児教育事業に関わることを誇りに思い、さらなる改善がみられるようにがんばっていききたいと思います。



ラオス
オイ
プロジェクト調整員

シャンティで働きたいと思った理由は、職員が情熱的なこと、基礎教育に力を入れていたこと、支援が必要な人に対して適切なサポートを行っていたことです。教育は今後もすべての人にとって重要なものと考えています。



ミャンマー
ハニー
図書館コーディネーター

シャンティに参加したのは、子どもたちの教育分野で活動していたからです。教育のサポートは子どもたちの未来のための自発的な投資です。社会基盤整備に不可欠な教育のご支援を、引き続きお願いできれば幸いです。



ネパール
ビノット
プログラム・マネジャー

私はグルンという先住民族出身です。12人兄弟のうち大学を出たのは私ただ一人です。大学勤務などいろいろ仕事をを経て、人生後半のキャリアを教育に貢献しようという決意、シャンティに入職しました。

ネパール

地震大国ネパールでの防災教育

ビノット…ネパールでは新型コロナウイルスの感染者数が累計約24万人にのぼり、7月下旬までロックダウンが続きました。学校も3月下旬から11月下旬まで閉鎖され、子どもたちは7カ月間学習の機会を失いました。ネパールは観光業が3割、出稼ぎによる送金が3割を占めるため、経済も大打撃を受け、仕事を失った出稼ぎ労働者や都市の貧困層が最も影響を受けています。家庭では女性への暴力、児童虐待の増加が課題となっています。

ミャンマー

根付き始めた図書館活動

ハニー…半世紀以上続いた軍事政権が2011年に終わり、民主化や経済発展が進んでいます。少数民族との和平や憲法改正が進まず、ロヒンギャ問題も国内外での政治的なかじ取りが非常に難しい局面です。8月下旬から新型コロナウイルスの感染が急

拡大し、再度ロックダウンのような状況が続いています。6月からは小中学校の新学期が始まりますが、公共図書館は閉鎖されたまま再開しておらず、子どもたちの学力低下も懸念されています。

ラオス

1クラスに2学年!? ラオスの挑戦

オイ…ラオスは多民族国家で、政府が公式に認定している民族は50あります。シャンティのルアンパバーン事務所でも5つの民族の職員が勤務しており、職員の3分の2が少数民族です。新型コロナウイルスについては政府の早めの感染対策もあり、感染者数が41名に抑えられています。コロナ禍により外国人観光客が来なくなったために、観光産業に従事している住民が多いこの街では、多くの方が職を失い、厳しい生活を強いられています。

カンボジア

遊びの中に学びがいっぱい

モンクラ…カンボジアでは新型コロナウイルスの感染が急激に広がっています。難民の帰還も進んでおらず、先が見えない状況です。

アフガニスタン

紛争下のアフガニスタンの教育を守る

職員代表…アフガニスタンは現在治安状況が悪化しており、活動地への出張も難しい状況です。タリバン政権崩壊後、平和な社会の実現に向けて復興がなされてきましたが、紛争は継続し、今なお1日に50名以上の民間人が巻き込まれて亡くなっています。その上、新型コロナウイルスによるロックダウンや国境封鎖による経済への打撃で、国民の半数以上が貧困を強いられ、長引く休校への対応もなく、学びの機会が奪われています。

タイ・ミャンマー国境支援事業事務所

心の拠り所 難民キャンプの図書館

セイラー…タイの新型コロナウイルスの感染状況は、11月末時点で感染者数が約4000名となっています。難民キャンプでは幸いにも感染の報告は出ていませんでしたが、11月下旬に初めて感染者が確認されました。難民キャンプは人口密度が高く、衛生面などでの懸念もあるため、タイ政府を中心に迅速な対策が取られています。近年は支援団体の撤退が続く、教育分野にも影響が出

ご視聴はこちらから



イベントの様子は
YouTubeでご覧
いただけます。

絵本・紙芝居ができたよ!

おはなしは教育の原点

「1日でも早く子どもたちにおはなしを届けたい」

その一心で、出版事業は始まった。難民キャンプでの図書館活動を通じて、子どもたちがどんなにおはなしが好きか教えてもらっていたからだ。

1993年カンボジアへ赴任。人材、図書、施設、資金など何もかもが不足している中、子どもたちの数は、現地スタッフとおはなしを始めるとあっという間に数百人が集まるほど。

おはなしに夢中になり、いきいきとした表情に変わっていく子どもたちを目の当たりにして、おはなしは

単なる娯楽と捉えがちだった教育関係者も、子どもたちやおはなしに対する見方が少しずつ変わっていった。

十分でない給料さえ遅配が続く中、教師が自転車やバイクで移動図書館を始めたり、アルバイトをしてセロテープを買い、ポロポロになった絵本を修復したり、子どもたちにせがまれて、村人や僧侶も忘れかけていた民話や昔話を語り始めたり、さまざまに活動は広がっていった。

「おはなしは教育の原点」この教えは、やればやるほど実感していった。人から人へ、こんなにくもりのある活動は、どんな時代になってもかけがえのない営みだと思ふ。

その国や人々の文化や習慣が刻み込まれている民話。シャンティは民話を保存、継承し、次世代に伝えていくために、絵本・紙芝居出版事業を開始しました。最初に出版を開始したのは1993年のカンボジアです。その当時、図書館事業を牽引していた高山由香さんに当時の様子や思いを聞きました。

※ UNHCR REGIONAL BUREAU FOR ASIA AND PACIFIC (RBAP), MYANMAR, EMERGENCY UPDATE, as of 01 June 2021

カンボジアで初めて絵本を出版するまでの道のり

おはなしは難民キャンプで復刻されたクメール民話集から現地職員に選んでもらった。

問題は、絵を描く人がいないことだった。数十人尋ね回り、ようやく表情豊かな動きのある絵を描く、看板描きのスクンに出会えた。シャンティの現地印刷センターに発注し、念願のカンボジア人によるカンボジア絵本が誕生した。

図書館で、すべてを吸収するかのようになり子どもたちは絵本を読み込み、紙はゴワゴワに劣化し、文字は擦り消えていく。絵本の寿命は約一年ほどだった。ストリートチルドレンの

出版絵本第1号!



『いも虫とカラス』

クメール民話『いも虫とカラス』、1993年10月 SVAカンボジア事務所出版

絵本の紹介: ある日、えさを探しているカラスが一羽飛んで来て、いも虫を見つけました。いも虫は食べられたくない一心で、カラスに言います。「ぼくを食べたいのなら、ぼくのなぞなぞに答えてからにしよう。答えられなかったら、ぼくを食べることはできないよ」。カラスはいも虫が出すなぞなぞに答えることができず、いも虫を食べるのをやめました。民話の教訓: とても小さなものも真珠のように輝く(一寸の虫にも五分の魂)

中にも、「字を教える」と言ってくる子が出てきた。

文筆 高山由香 シャンティカンボジア事務所 元職員



高山由香さんが当時読み聞かせをしている写真

シャンティがこれまで出版してきた絵本・紙芝居の実績

カンボジアで始まった出版活動は、6つの活動地に広がり、これまでに絵本と紙芝居あわせて約96万冊を出版しています。各活動地で、記念すべき1作目をご紹介します。

ラオス

現地で収集した少数民族に伝わる民話や創作物語を、絵本や紙芝居にして出版しています。



『みどりの傘』

2人の男の子がそれぞれ、「何もしなければずっとみどりの傘の下で過ごせる」「何もしなければ食べ物すらない苦勞が待っている」と有名な古い師に告げられます。それを信じた2人はこの日から…。

カンボジア

絵本出版委員会がお話を選んだり、専門家の作品をアレンジしたりして、民話や創作絵本を出版してきました。



『目が見えない人と足が不自由な人』

ある所に目の見えない男と足が不自由な男がいました。主人にこき使われた2人は逃げ出し、お互いの特技を生かして珍道中の旅へ。訪れた先で猛獣や巨人を倒すことになった2人の運命は…?

アフガニスタン

2003年より、民話や創作(栄養や自然災害等)の絵本や紙芝居を、出版委員会の協力と教育省の許可を得て出版しています。



『おじいさん』

ナツメヤシを植えるおじいさんを見た王様は、自分がいつ食べられるかわからないのになぜ?と問いました。自分も食べさせてもらったらお返しに、彼は若い世代のために木を植えています。

ミャンマー(ビルマ) 難民キャンプ

2001年から出版事業を開始し、ビルマ語とカレン語の両方で民話を中心に絵本・紙芝居を出版しています。



『ヘンリーと特別なおもだち』

(HIV/AIDS啓発絵本) ヘンリーのクラスに転校生のワフが来ました。エイズを患うワフが仲間外れにされる中、友達になりたいヘンリーは図書館で啓発活動を始めます。おかげでワフは皆と仲良くなることができました。

ネパール

大地震からの復興期に2017年から防災教育紙芝居の出版を開始。2020年からは栄養教育紙芝居を出版しています。



『地震はどうして起こるの?』

子どもたちが、なぜ地震が起きるのか考えています。神様が引き起こしている?いいえ、地面のプレート同士がぶつかっているのです。迷信を信じず、いつ起きるかわからない地震に備えましょう。

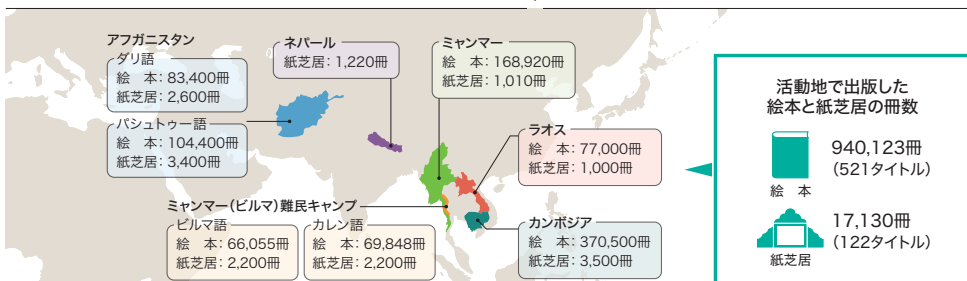
ミャンマー

2014年より出版を開始し、家族、友情、自然、文化といった幅広いテーマの絵本と紙芝居を出版してきました。



『あの時のメイロン』

犬のメイロンは、女の子ミヌとその家族にたくさんの愛情を込めて育てられています。メイロンの命が尽きるとき、メイロンとミヌが取った行動は…。動物や人間の違いを超えた家族の絆を描いています。



絵本・紙芝居ができたよ!



ネパール紙芝居『三国食べもの物語』



02 専門家によるアドバイス

原案に沿って現地のイラストレーターが絵を描き、紙芝居や、防災、栄養の専門家から助言をいただきながら、おはなしがわかりやすくなるよう、工夫を凝らします。



03 子どもたちへの試演、編集者による体裁や言葉の編集

実際に子どもたちに試演した紙芝居を見てもらいます。子どもたちの反応を参考に、伝わりづらい表現などを改良し、編集者が細かく体裁や言葉の編集をします。



04 印刷、配布、研修

最終チェックを行った後に、紙芝居を印刷し、学校やコミュニティ図書館などに配布します。配布先の教員や図書館員を対象に紙芝居の演じ方の研修も行います。

制作に関わる職員の声

紙芝居は、お互いに言葉を変えながら進んでいく物語を通して、子どもたちが楽しみながら学ぶことができる効果的な教育ツールだと思います。

ビノッド・グルン
ネパール事務所
プログラム・マネジャー



やべみつのり先生

絵本・紙芝居作家。シャンティの活動地における絵本・紙芝居づくりの指導に25年にわたって尽力いただいている。

絵本や紙芝居について、シャンティの中でいいところを共有したり学び合う場を設けたら、作品づくりの幅も広がるとおもう。お互いの良い作品を見せ合う場があるのもいいですね。

専門家のコメント

制作に関わる職員の声

子どもたちは新しいおはなしの絵本を心待ちにしています。子どもたちが手に取り喜ぶ姿が活動のやりがいです。

アフガニスタン事務所担当者



専門家のコメント

画家

2004年よりシャンティの絵本出版に携わる。

アフガニスタンの子どもたちは絵本が大好きで、絵本出版に携われていることが私の喜びとなっています。これからもシャンティと活動を続けていきたいです。



シャンティはそれぞれの活動地で、現地の人々と共に創意工夫をしながら、出版文化をつくりあげてきました。現地で出版する絵本や紙芝居は、どんな過程を経てできあがるのでしょうか。子どもたちの手に届くまでの過程を、4つのステップでご紹介します。

絵本・紙芝居ができるまで

ネパールの紙芝居



01 原案の作成

日本とネパールのスタッフが一緒に紙芝居の主題となるテーマを決めます。そこに、防災や栄養の知識を盛り込んで、絵コンテやストーリーを考え、紙芝居の原案をつくります。

アフガニスタンの絵本



01 民話・おはなしの収集と選定

村落を訪問し、長老や村人から口承で伝わるおはなしの聞き取りや、出版委員会のメンバーが創作したおはなしを収集します。その後、出版委員会にて出版するおはなしを選定します。



02 絵本の制作

絵本の絵と文章の構成案をつくります。その後、現地の画家がダミー画を作成し、出版委員会や編集者、日本の絵本作家と相談しながら修正を重ねて印刷版を作成します。



アフガニスタン民話絵本『賢い願い』



03 出版許可

出版委員会において、絵と文章が児童心理やアフガンの文化の観点から問題ないかなどの最終確認を行います。その後、最終版を教育省に提出し、出版許可を取得します。



04 印刷と配布

公用2言語(ダリ語、パシュトゥー語)それぞれの印刷版を用いて、首都カブールの印刷会社にて印刷発行を行います。絵本納品後、小学校や公共図書館、子ども図書館に配布します。

子ども図書館で絵本を読む子どもたち



学校での読み聞かせ

絵本・紙芝居が できたよ!



絵本・紙芝居は こんな風に活用 されています

絵本や紙芝居を読む中で、子どもたちは新しい言葉や知識を学んでいき、彼らの世界はどんどん広がっていきます。図書館で読んだり聞いたりして覚えなおはなしを、家に帰って両親や妹弟に披露する子どもたちもいます。

現地で出版された絵本や紙芝居は、さまざまな活動を通じて届けられます。シャンティは4つの軸を大切に活動しています。

学校図書館やコミュニティ図書館の建設・整備を行い、出版した絵本や紙芝居を配架しています。子どもたちが自由に本に触れ、安心して学べる場所を、住民や行政の方々と一緒につくり上げています。絵本や紙芝居を用いての読み聞かせ活動も行っています。



本

場所

人

活動

子どもたちに物語の魅力や伝えたい本との出会いをつなぐ人たちの存在が、図書館活動には不可欠です。シャンティは行政職員や図書館員、教員へ、読み聞かせの技術や図書館の管理、図書館の運営についての研修会を開催しています。

シャンティの活動地には、紛争や貧困などにより学校に通えなかったり、学校や地域に図書館がなく絵本を見ることがない子どもがたくさんいます。そういった地域に、移動図書館車や移動図書館バイク、図書箱に絵本や紙芝居を詰めて巡回し、すべての子どもたちが本に触れる機会を届けています。

まとめ

一人でも多くの 子どもたちに届けたい

事務局長兼アフガニスタン事務所所長 山本英里

私が初めて関わった出版絵本の原案には、人がだまし合い最後にもみな死んでしまうという残酷な絵が生々しく描かれていました。口承で伝わるおはなしを絵本にする予想以上に残酷になります。子どもたちが読んで幸せになり、希望を感じられる、そんなおはなしってどうあるべきだろう、いや、子どもは現実を知るべきだ、と現地の人々と侃々諤々の議論を重ねます。絵本1冊を作成する過程は、自国の子どもたちの幸せを考える時間になるのです。

シャンティはこの過程こそが重要だと考えて活動してきました。手づくり感満載の絵本には、貧困や紛争の中で生きなければいけない子どもたちに、自国の文化や伝統、アイデンティ

ティ、そして平和への希望などを伝えていきたい思いが込められています。

一人でも多くの子どもたちが絵本を手にとれるようにするには、これからのシャンティの役割として、絵本の価値がより向上し、絵本の出版に携わる作家、出版社など現地の人たちの権利や待遇が認められていくために何ができるか考えることが必要だと思っています。デジタル化が進む中で、必要なところには積極的に最新技術を取り入れていくことも検討していく一方、紙でしか味わえない良さを残していくことも大事だと思っています。まだまだ絵本が少ない国で、1冊の絵本が子どもの心の栄養になる、これからもそんな絵本を丁寧に育ててまいります。

シャンティの図書館活動指針

シャンティの図書館活動は、子どもの教育を受ける権利と文化を継承する権利を前提として、子どもの価値、態度、知識を発達させることを目的としており、第一義的な対象を「困難な状況に置かれている子どもたち」と規定し、また、それは青少年、父母、教員、図書館員、その他の子どもに関わる人々をも含める。

その手法は、具体的にはおはなしおよび文化・文芸活動、子どもに関する教育者対象のトレーニング、常設図書館の建設、常設図書館の運営、「よい本」の出版、そしてこれらの活動と他の社会資源とのネットワークづくりなどで構成された「読書(習慣)推進プログラム」である。



この指針は、2001年タイのバンコクで開かれた「図書館事業モデル形成会議」にて、会議の参加者(シャンティ東京、海外事務所の図書館事業調整員、所長ら31人)によって話し合わせ、合意したものです。

図書館員の声

図書館を、誰もが自由に来て読書をしたり、好きな本を借りたりすることができる場にしていきたいと思っています。

プレム・サンボツさん

子どもの声

私は、本から両親やお互いを尊敬することの大切さを学びました。本を読んでいると、そうしたことを楽しく学べます。

ペン・チャムランさん



エリック・カールさん 追悼メッセージ

『はらぺこあおむし』などを世に生み出した絵本作家であるエリック・カールさんが、5月23日、91歳でご逝去されました。日本でも40作近くの絵本が翻訳され、世代を超えて親しまれています。

絵本のメッセージをこれからも

シャンティはこれまでに「絵本を届ける運動」を通じて、エリック・カールさんの絵本1万2574冊をアジアの子どもたちに届けてきました。エリック・カールさんの色鮮やかで大胆な構図の作品は、シャンティの運営するアジアの図書館で長年楽しまれ、困難な状況にある子どもたちにも心躍る時間をもたらしてくれました。

各地に届けられた絵本は、学校図書館やコミュニティ図書館などに配架され、子どもたちの手元に届きます。また、移動図書館活動や読書推進イベントでのおはなし会を通じて、学校や図書館へのアクセスが十分にならない人たちにも絵本を届けています。

絵本は子どもたちに、文字の読み書きを学ぶこと、たくさんの物語や外の世界に出会うきっかけを与えてくれます。

エリック・カールさんは生前「未知との出会いに対する恐れを打ち消し、前向きなメッセージとして伝えたい。子どもたちは生まれながらにして自由に学びたいと思っていると思います。学ぶことは本当に魅力的で楽しいものであることを彼らに示したい」と話され、シャンティの活動も長年にわたり応援していただいています。

エリック・カールさんが絵本に込めたメッセージを、これからも「絵本を届ける運動」を通じて、子どもたちに届け続けたいと思います。シャンティ一同、心からご冥福をお祈りいたします。

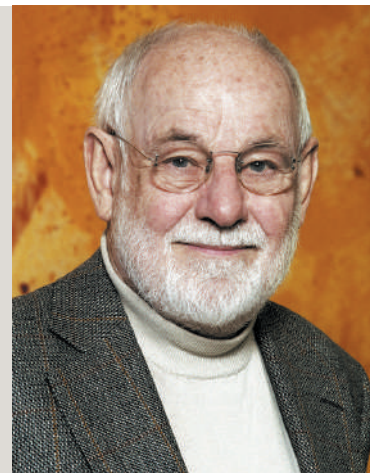
届けた代表的な絵本



『はらぺこあおむし』
(偕成社)

『おほしさま
かいて!』
(偕成社)

『1, 2, 3
どうぶつえんへ』
(偕成社)



©Photographer Paul Shoul

エリック・カールさんのプロフィール

1929年アメリカのニューヨーク州で生まれ、幼少期にドイツへ移住。ドイツ・シュトゥットガルト造形美術大学卒業。グラフィック・デザイナーを経て、1967年に出版された絵本『くまさんくまさんなみてるの?』の絵つけを担当したことがきっかけで、絵本作家としてあゆみはじまりました。翌年に自身の絵本『1, 2, 3 どうぶつえんへ』を発表し、ポローニヤ国際児童図書展グラフィック大賞を受賞。代表作である、幼いあおむしの成長を鮮やかな色彩で描いた『はらぺこあおむし』は世界60以上の言語に翻訳されています。

アジアの子どもたちに届けられたエリック・カールさんの絵本

	はらぺこあおむし (偕成社)	1, 2, 3 どうぶつえんへ (偕成社)	おほしさまかいて! (偕成社)	くまさんくまさんなみてるの? (偕成社)	ことりをすきになった山 (偕成社)
カンボジア	3,842	1,590	1,471	1,021	0
ラオス	1,086	747	430	246	0
ミャンマー (ビルマ) 難民キャンプ	89	0	1	218	794
アフガニスタン	606	0	0	0	0
ミャンマー	0	0	0	0	361
タイ(シーカー・アジア財団)	0	0	0	0	72
合計	5,623	2,337	1,902	1,485	1,227
総合計	12,574冊				

現地からの声

タイ国境にあるミャンマー(ビルマ)難民キャンプの図書館でも、絵本は多くの人に愛され読み継がれています。

ソー・トゥー・トゥーさん(小学生・11歳)

僕は『はらぺこあおむし』が大好きです。中でも、いろいろなフルーツや食べ物の食べ方が好きです。あおむしが最後、蝶になって飛んでいくところがびっくりしました。

ノウ・ビーさん(幼稚園教員・21歳)

色の違いやささまざまな種類の動物について知ることが出来る『くまさんくまさんなみてるの?』は、私も子どもたちもお気に入りの絵本です。

ノー・ペン・ニー・セイ・ロー・ワさん(図書館員・23歳)

図書館でエリック・カールさんの絵本を読んであげると、子どもたちはうれしそうに聞き、たくさんの質問をしてくれまます。新しい言葉やいろいろな知識も得られます。

世界のさまざまな国のみなさんが私の絵本を楽しんでくださっているのを知って、とてもうれしく思います。シャンティ国際ボランティア会のみなさんが、さまざまな言語に翻訳され、子どもたちに絵本を届けている活動を、私はとてもすばらしく尊いことだと感じています。

あらゆる年齢のみなさんが私の絵本を読んで満ち足りた気持ちになり、家族や友達と一緒に絵本を楽しみながら読むことができるように願っています。

私は多くの人が本に親しむと同時に、希望に満ちたメッセージが込められた私の物語がすべての人々に平和と人生の美しさを届けられればと願っています。

エリック・カール



ウサギくん、 きみをわすれないよ

1

セインレカンター池は水辺の生き物みんなにとつてのすみかです。みんなとても幸せにくらしていました。



2

暑い夏がやってきました。この年の日照りは特にひどく、水辺の生き物たちを苦しめました。「水が干上がってしまふ。これじゃあ息ができない。もうダメだ！」とサカナくん。カエルくんとカメくんは急いで水場を探しに行きました。



3

「クタクタでもう動けない。どんなに探しても水場が見つからない…」そこへウサギくんがやってきました。「あれ？カメくん、一体どうしたんだい？」「ぼくたちのすみかだった池が干上がってしまったんだ」。



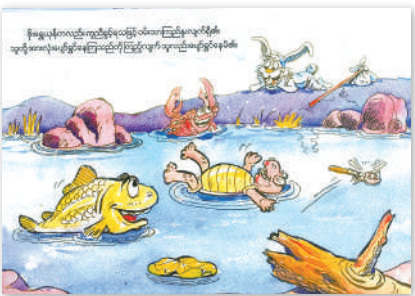
4



するとウサギくんは、「心配しないで！水場を知っているよ！僕についてきて！」と走りだしました。

5

「ほら、みんな、あそこを見て！」「なんて大きな池！僕たち死ななくていいんだ！」池にもどることができて、みんな元気になりました。



6



「もう行かなくちゃ。みんな、さようなら！」ウサギくんはそう言って去っていきました。ウサギくんはみんなの友だち。きみのことはいつまでもわすれないよ。

世界の現場から

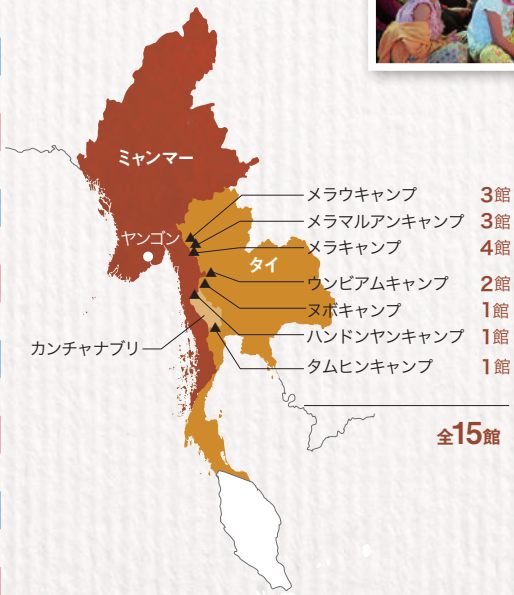
AIRMAIL

To 日本の皆さん From 活動の現場

このページでは、
アジアの各国で活動する
シャンティの様子や
スタッフを紹介します。



難民キャンプとシャンティの
図書館の数 (2021年現在)



From BRC

ミャンマー(ビルマ) 難民キャンプ

タイ・ミャンマー国境の難民キャンプでコミュニティ図書館活動を開始してから20年が経ちました。難民問題が長期化する中、新型コロナウイルス感染拡大やミャンマーでの軍事クーデターは、子どもたちの学びや祖国への帰還の動きにも大きな影響を及ぼしています。



カンボジア事務所
ソフィアビーさんのおすすめおやつ

みんなの笑顔をつくる
世界のおやつ旅

カンボジアのおやつ
ソクチャー・ロツパウ

ស៊ុកច្រាប៊ុន



カンボジア事務所の総務担当として、事業運営サポートや広報関連の仕事をしています。

カボチャの中にカスタード！
見た目も楽しい人気のおやつ

チヨムリアップ・スオ(こんにちは)！

カンボジアで一番人気とも言えるおやつ、「ソクチャー・ロツパウ」は、濃厚でクリーミーな甘みとやわらかい食感特徴です。カボチャの中にカスタードを入れて蒸して、ケーキのようにスライスして食べます。ココナッツミルクの風味が効いていて、日本のかぼちゃプリンにも似ています。オレンジ色の果肉に黄色のカスタードが入って、見た目もきれいです。蒸されることで、カボチャ自体がやわらかくなるので、皮まで食べられます。式典や誕生日など家にお客さんをお呼ぶときはもちろん、普段から家でつくって食べたりする、みんなが大好きなおやつです。



私はよく家で作りますが、レストランで食べることもできます。コロナ禍であまり見かけなくなりましたが、以前は市場でも買えました。

Hot Topics

① コロナ禍での危機的な難民キャンプの教育

難民キャンプではインターネットへのアクセスができず、教員はデジタル学習プログラムや学習キットなどの迅速な提供ができません。このような状況の中、すべての教員はカレン難民委員会教育部会(KRCEE)やOCEE、教育関係者と緊密に連携し、安全な学校再開のための計画を立てなければならず、教員の負担が増えています。

② ミャンマーへの自主的本国帰還

難民の方々が安全に尊厳を持って帰国できるよう、UNHCRと各国政府が「自主的本国帰還プログラム」を支援し、ミャンマー本国に約1,000人が帰還しました。しかし、国境沿いでは新型コロナウイルスの感染拡大や軍事クーデターなどにより、深刻な状況になっており、プログラムが停止されています。

③ キャンプにおけるセキュリティと規制

新型コロナウイルス感染の予防策として、キャンプ内に警備員を増やし、関係機関と協力して手洗いのチェックや体温チェックを行っています。それに加え、キャンプ内での移動がより厳しく制限され、キャンプの住人が自由に出入りすることは許されず、また、NGOスタッフもキャンプへのアクセスが制限されています。



ミャンマー（ビルマ）難民事務所
図書館活動コーディネーター

エツソさん

PROFILE

地域開発に興味があり、カレン族のコミュニティのために何か仕事をしたいと思い、2004年6月に入職。図書館活動のアシスタントコーディネーターとして、カンチャナブリ事務所を担当。

読書を楽しむことが習慣に。成長した子どもたちの姿に、読み聞かせ活動は子どもたちに楽しみを与えるだけでなく、読書の楽しみや、習慣、スキルを身につけることにもつながります。幼い頃からキャンプで過ごしてきた子どもたちが成長し、利用者やボランティアとして再び図書館に訪れる姿を目の当たりにし、うれしく感じます。

From BRC

ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ

さまざまな外部要因により活動が制限される中、住民や教育関係者と共に、人々が安心して図書館を利用できるよう取り組みを行っています。



『おおきなふ』 福音館書店

コロナ禍の厳しい状況下、できることを確実に

昨年4月以降、国内外での新型コロナウイルス感染拡大により、コミュニティ図書館では、州の指針と公衆衛生規則に基づき、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために一時的に閉館しました。その間、公衆衛生規則に従い、シャンティは体温計などの衛生用品を図書館に提供。図書館スタッフは、再開が認められたときのため、すべての蔵書やその他の資料を含む図書館の消毒を行いました。

昨年5月にはキャンプ教育部会事務所(OCEE)の読書促進スキルのサポートを受けて学校が再開。その後、利用者数は増加し、異なる教育センターの教師や学生が自分のクラスで使用する参考書や絵本を選ぶことができるようになりました。

ミャンマー(ビルマ) 難民キャンプでの20年

第1部

タイ国境ミャンマー(ビルマ)難民キャンプでの20年

セイラー…シャンティが難民キャンプに初めて図書館を設置したとき、人々はとても興奮していました。子どもたちにとって図書館での活動はとても新鮮だったようで、多くの子どもたちが「今までこんな経験をしたことがない」と言っていました。図書館では、すべての人の生涯学習をサポートしています。また、図書館は民族の伝統文化を継承する場でもあります。難民キャンプで生まれた子どもたちにカレン族の文化や歴史を伝えるため、高齢者から民話を集めて記録する活動も行いました。

中原…だんだんと図書館の認知度や利用者が定着してきた中で、どうしても図書館に直接来られない人たちが本を手にとることができるとか考えるようになりました。そこで、学校の図書館を整備したり、公民館のような場所で読み聞かせをしたりと、より地域に足を運ぶようになり

ました。

セイラー…学校の図書館では、これまでコミュニティ図書館に來なかつた子どもたちも本を読み始め、親も先生も本の影響を理解するようになりました。本は知識を得るだけでなく、子どもたちの心を育てるのにも役立ちます。

中原…図書館委員会が、「シャンティの活動は他のNGOと違う。図書館活動を通して、子ども、若者、親、高齢者が知識と技能を図書館から得られている」と言っていたのが印象に残っています。この活動を、キャンプが続く限り何とか継続していきたいと思っています。

川畑…難民キャンプに足を運ぶたび、そこで暮らす人たちの背景や想いはさまざまであり、その中で図書館が居場所になっていると感じています。セイラーさんが印象に残っている出会いについて教えてください。

セイラー…ティックさんという女性は人生のほとんどを難民キャンプで過ごし、いつも図書館に来ていました。13歳で結婚した彼女は、地域の

ら、難民の方がいる限り、寄り添って歩んでいきたいと思っています。

第2部

クイーター下の ミャンマーからの 避難民を支えたい

クイーター以降、不従運動に参加した人たちが弾圧を逃れるために国境付近に逃れ、国民の保護を表明する少数民族武装勢力と国軍との間で激しい戦闘が行われています。3月下旬以降、多くの避難民が戦闘から逃れ、タイ国内に流入しています。が、情報統制も厳しく、正確な数を把握することが困難です。

現地では今も、多くの人々がジャングルの中で逃げ惑う生活をしており、度重なるタイ側への流入や帰還を繰り返しています。サイレンが鳴ればジャングルの奥地や洞窟に逃げ、戦闘機がいなくなれば村の開けた場所に戻ってくるという状況が続いています。村に避難してきた人たちは、自分たちの村が焼かれてしま



6月20日の「世界難民の日」に合わせ、活動開始から20年が経過したミャンマー(ビルマ)難民キャンプでの活動を振り返るとともに、現地で事業を行ってきた職員や難民キャンプで暮らす人々の想いをお伝えするイベントを開催しました。また、今年2月に発生したミャンマーでの軍事クーデター以降の国境の状況や人々の声を、タイのメーソットから事業を行っている職員よりご報告しました。

人からの差別や見下しによって自分の人生に意味がないと感じて隠れるように過ごすようになりました。そんなとき、友人から紹介された図書館ユースボランティアの活動に参加し、新しいことを学び、さまざまな経験を積むことで人生に意味を見いだしました。彼女は「私は未来だけを向いています」と話しています。

川畑…2008年以降、何度も難民キャンプにある図書館を訪問しましたが、子どもたちだけでなく、ここで暮らす人々の日常の中に図書館があると感じました。これはすごいことだと思えます。どういう環境であるれ自分らしく生きるという選択肢があり、それをシャンティが支えていることがシャンティの良さであり受け継がれているマインドだと思えます。

中原…帰還プロセスが進み、難民問題解決への光が見えてきましたが、クイーターによって止まってしまいました。キャンプでの苦しい生活は続いていて、解決の難しさを感じます。我々ができることを考えなが

登壇者
プロフィール



セイラー
ミャンマー国境支援事業
事務所 副所長

難民キャンプ内の学校で教育・文化の人道支援従事者として勤務後、2001年シャンティに入職。



なかはら あき
中原亜紀
ミャンマー国境支援事業
事務所 所長

1998年に入職。バンコク事務所勤務後、ミャンマー(ビルマ)難民事業事務所・ミャンマー事務所の所長などを経て2019年7月より現職。



かわばたよしふみ
川畑義文
フォトジャーナリスト

ニューヨークの雑誌社勤務時代に9.11を経験し、記者職を捨て写真の道に進む。タイ国境の難民キャンプは2008年から取材を続けている。

い、蓄えていた食料も手持ちのお金も尽きてしまい、他の村の支援がなければ生活ができない困難な状況にあります。

現地では食料の支援ニーズが高いですが、子どもたちの教育が顧みられていない状況が続いており、今後どう支援できるかをパートナー団体と検討していくことが重要だと感じています。

今後もしャンティとして、この状況にしつかりと向き合っていく予定です。

登壇者
プロフィール



あしだ ゆうた
芦田雄太
地球市民事業課
海外緊急人道支援担当

2020年に入職。アフガニスタンの緊急人道支援事業を担当後、現在はミャンマーでの軍事クーデター以降の避難民支援事業に従事。

ご視聴は
こちらから



イベントの様子は
YouTubeでご覧
いただけます。

経理課



たき りゅうたるう
瀧 龍太郎
チーフ

おうちじかんの過ごし方

自転車に乗って近くを走っています



よしかわ たけし
吉川 剛
課長

おうちじかんの過ごし方

何気ない日常の中の「小さな幸せ」探し



いのまた さなえ
猪又 佐奈江
寄付金データ管理担当

おうちじかんの過ごし方

息子たちと一緒に宅トレしています



かさまつ やすこ
笠松 康子
国内経理担当

おうちじかんの過ごし方

オンラインで地方の友達と会う

執行部



やまもと えり
山本 英里
事務局長/
アフガニスタン事務所所長

おうちじかんの過ごし方

娘と海動画の視聴、オリーブ栽培、アロマ



おかもと わこう
岡本 和幸
専務理事/
クラフトエイド課課長

おうちじかんの過ごし方

猫のお世話、庭の手入れ、野菜づくり

ボランティアな
人たち

番外編

職員紹介

東京事務所に勤務する
職員に「おうちじかんの
過ごし方」を聞きました。

アフガニスタン事務所(東京事務所付)



きよま どんいん
許 東音
緊急人道支援担当

おうちじかんの過ごし方

つんどく
積読の山を解消中



まや ゆき
真屋 友希
チーフ

おうちじかんの過ごし方

娘と図書館で借りた動物図鑑を読んで妄想動物園ツアー

総務人事課



めすだ やすひろ
召田 安宏
総務・庶務担当

おうちじかんの過ごし方

4歳の息子との怪獣(ウルトラマン)ごっこ



こが ともこ
古賀 智子
チーフ

おうちじかんの過ごし方

ベランダ菜園、クラシックギターの練習



たけもと きょうこ
竹本 恭子
総務・庶務担当

おうちじかんの過ごし方

オンラインで朝ヨガと落語鑑賞



こばやし ゆうじ
小林 裕司
データ管理・IT担当

おうちじかんの過ごし方

ジョギング、野菜づくり



ささき ひろみ
佐々木 ひろみ
広報担当

おうちかんの過ごし方

料理に目覚め、母の味を
習って実践



かめたに みほこ
亀谷 美保子
絵本を届ける運動

おうちかんの過ごし方

庭のハーブを、お風呂で活
用しています



ひらしま ようこ
平島 容子
課長補佐

おうちかんの過ごし方

ミステリー小説を読む



すずき あきこ
鈴木 晶子
課長

おうちかんの過ごし方

「桃鉄」で国内旅行気分を
楽しむ、ナンプレ

広報・リレーションズ課



あらかわ ちひろ
荒川 千尋
クラフトエイド

おうちかんの過ごし方

ミシンがたがた、針ちくち
くなクラフト日和



かみた ともえ
嘉味田 倫慧
課長補佐

おうちかんの過ごし方

お昼寝

クラフトエイド課



ひら しょうすけ
白比 洸紹
支援者リレーションズチーム

おうちかんの過ごし方

ため込んでいた本を読み漁
る



やまむら さとこ
山室 仁子
支援者リレーションズチーム
チーフ

おうちかんの過ごし方

おいしい作り置きごはんづ
くり挑戦中



さとう すみえ
佐藤 純恵
クラフトエイド

おうちかんの過ごし方

自宅のクラフト商品棚卸



やまだ たかこ
山田 貴子
支援者リレーションズチーム

おうちかんの過ごし方

おえかき、読書、ゆるトレ



よしだ けいすけ
吉田 圭助
支援者リレーションズチーム

おうちかんの過ごし方

子どもと工作、おりがみ、
おえかき



きのした あいこ
木下 愛子
絵本を届ける運動

おうちかんの過ごし方

読書、買出し、料理



いわまつ ともこ
岩松 智子
絵本を届ける運動

おうちかんの過ごし方

栽培中のミニトマトの観察

事業サポート課



やしまみどり
谷島 緑
課長補佐

おうちかんの過ごし方

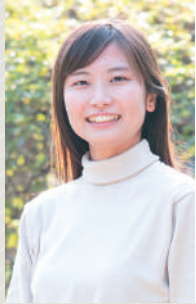
猫と遊んで動画を撮り、遠方の家族に共有



きくち あやの
菊池 礼乃
課長

おうちかんの過ごし方

子どもと一緒に遊べる簡単なおもちゃづくり



まつもと ゆうこ
松本 侑子
海外事業担当

おうちかんの過ごし方

旅番組を見て脳内旅行



たけもと まい
竹本 舞
海外事業担当

おうちかんの過ごし方

ネパール料理に挑戦、失敗、再挑戦



やまくち えりか
山口 恵里佳
海外事業担当補佐

おうちかんの過ごし方

所属するゼミの課題文献を読んでいます



おさない よしえ
長内 淑江
海外事業担当

おうちかんの過ごし方

海外の映画やドラマを見る



どい ももこ
土居 桃子
海外事業担当補佐

おうちかんの過ごし方

読書、音楽鑑賞、お茶を飲むこと

地球市民事業課



デラワリ ケイ
チーフ

おうちかんの過ごし方

YouTubeでアフガニスタンの動画を見る



いちかわ ひとし
市川 斉
課長

おうちかんの過ごし方

12年ぶりに床板に電動サンダーをかけ、ニス塗



あしだ ゆうた
芦田 雄太

海外緊急人道支援担当/
ミャンマー(ビルマ)難民事業
事務所赴任

おうちかんの過ごし方

オンラインで海外にいる友人との交流



わたなべ たまひと
渡邊 珠人

国内緊急人道支援担当/
国内事業担当

おうちかんの過ごし方

映画鑑賞と読書



なかい やすひろ
中井 康博

国内緊急人道支援担当

おうちかんの過ごし方

筋トレ、旅番組視聴、キーマカレーづくり



むらまつ せいげん
村松 清玄
国内事業担当

おうちかんの過ごし方

限界まで寝る。コロナ後の旅行計画を立てる

シャンティからのお知らせ

設立40周年イベントのご案内

「人道危機にどう向き合うか

～40年を迎え、問われるNGOの支援と可能性～

設立40年を迎えた2021年、ミャンマーやアフガニスタンでは社会情勢が大きく変化しました。このような中、シャンティは人道危機にどう向き合い、NGOとしてどのような活動が必要とされているのでしょうか。各活動地とつなぎ、これまでの活動や現在の様子、そしてNGOの可能性についてお伝えするオンラインイベントを開催します。

[開催日時]

2021年12月11日(土) 14:00-17:00

[プログラム]

第1部:「人道危機にどう向き合うか

～ミャンマー、アフガニスタンの今～

山本英里(事務局長)、藤谷健(朝日新聞)

第2部:「問われるNGOの支援と可能性」

各海外事務所の現地職員

遺贈寄付を受け付けています

遺される財産や、相続された財産の一部を、次世代を担う子どもたちの教育支援の活動に役立ててほしいという思いをかたちにする方法のひとつが遺贈寄付です。

個人の意思を受け継ぐものから、ご自身で生前に贈与いただくもの、お金や物品、香典やお花料での寄付などさまざまな「遺贈」のかたちがあります。

シャンティでは、遺贈・相続寄付に関するお手続きに關して、パンフレットにてご案内しております。また個別でのご相談も受け付けております。



お問い合わせ

広報・リレーションズ課

電話: 03-6457-4585

人事のお知らせ

●入職 (8月1日付)

木下 愛子 広報・リレーションズ課 マーケティングチーム
絵本を届ける運動担当

●異動 (8月1日付)

市川 斉 ミャンマー事務所所長 兼 地球市民事業課課長
→ 地球市民事業課課長

中原 亜紀 ミャンマー国境支援事業事務所所長
→ ミャンマー国境支援事業事務所所長
兼ミャンマー事務所所長代行

召田 安宏 広報・リレーションズ課 広報担当 → 総務人事課 総務担当

(9月1日付)

浅木 麻梨耶 ミャンマー事務所 コーディネーター
→ ラオス事務所 コーディネーター

編集後記

『パンギャンポスト』『SHANTI』を読み返すことがよくあります。文章からは、人々の息遣い、職員の葛藤、子どもたちの喜びが感じられ、胸が熱くなることも多々あります。私と同じように、次の世代が『SHANTI』を読み、活動地のみずみずしさを感じてくれるようになっていきたいと思います。(鈴木晶子)

シャンティ 2021年秋号(通巻312号) | 2021年10月1日発行

発行人: 若林恭英

発行所: 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

〒160-0015東京都新宿区大塚町31 慈母会館2・3階

TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220

WEB: www.sva.or.jp E-Mail: info@sva.or.jp

編集人: 山本英里、鈴木晶子

編集・制作: 株式会社社文化工房

印刷: 株式会社サンエー印刷

当会へのご寄付は、所得税、住民税、および法人税、相続税の優遇措置が受けられます。
©Shanti Volunteer Association.
「シャンティ」は、FSC®森林認証紙にノンVOCインキ(石油系溶剤0%)で印刷しています。



川畑 嘉文(フォトジャーナリスト)

Yoshifumi KAWABATA

ニューヨークの雑誌社勤務時代に9.11を経験し、記者職を捨て写真の道に進むことを決意。2002年、会社を退職しタリバン政権崩壊後のアフガニスタンを訪れ取材を行った。2005年フリーランスのフォトジャーナリストとなり、世界中の難民キャンプや貧困地域、自然災害の被災地で取材を行い、雑誌や新聞などに写真と原稿を寄稿している。



図書館で指示出し中。
2008年撮影。

再会

ミャンマー(ビルマ)難民キャンプの取材に伺う際、楽しみなことが一つあります。それは現地職員たちとの再会です。

最初に出会ったのは13年前。当時は多くがまだ20代。よく働き、よく食べ、よく話す彼らはとても親しみやすく、すぐに打ちとけることができました。キャンプ内だけでなく、休みの日には、キャンプ外での取材にも同行してもらい、本当に感謝しかありません。そんな彼らも今はエキスパートとして活躍しています。彼らの尽力が長期にわたる支援活動を支えてきたのです。

数年前、夕食に誘われ、ご自宅に伺うとそこには可愛いらしい赤ちゃんをあやす女性職員の姿が。なんとも感慨深く、目を潤ませてしまいました。ぼくも年をとりました。



上: キャンプへの移動中はおしゃべりタイム。2008年撮影。

下: 途中立ち寄った公園で。2009年撮影。右奥は事務局長?

